□コンセプト

戦後の核家族化により、一戸建住宅が主流になった現代。しかし一世帯あたりの人数が減り、近所同士の関わりが希薄になった今、この住宅のあり方は様々な問題を抱えています。母子家庭の育児問題や高齢者の孤立化など、行き場を失った小さな家族がまちに溢れています。

そこで私達が考えたのは、小さな家庭同士を緩やかにつなぐ、路地なかの家。動線を外に出すことで、互いの生活がところどころで垣間見えます。母子家庭、老人夫婦、新婚さん、更には単身同士のシェアハウスにまで。路地なかの家は現代の数あるライフスタイルに適応する、新しい共同住宅の提案です。

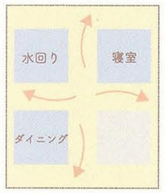
◇ダイアグラム

敷地
・都心の立ち並ぶ二階建ての一戸建住宅をモデルとする。

住人
・住人は２世帯以内とし、知り合い同士のみならず、他人同士も対象とする。

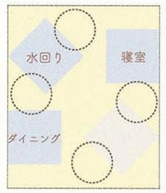
最小限の機能空間「ダイニング、寝室、水回り」をそれぞれ3m×3m の大きさに収める。

→



各機能が隙間を介す独立した部屋となり、それが１世帯分のユニットとなる。

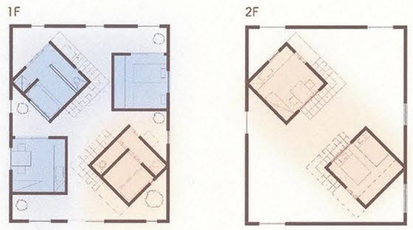
→



部屋同士を寄せたり、角度をつけることで住人の用途によって変化する隙間が生まれる。

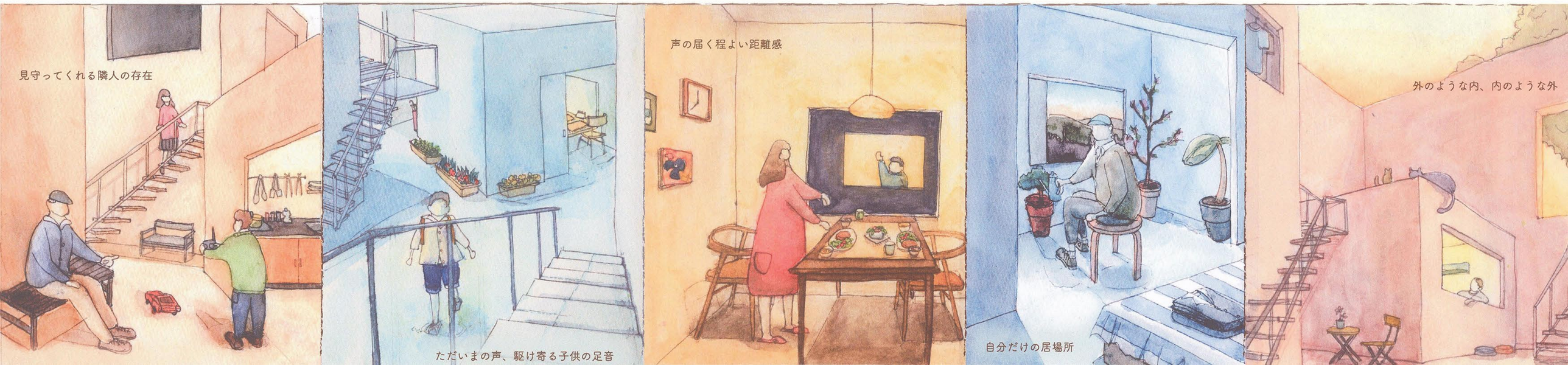
路地裏のような道や、ちょっとした中庭が生まれ、幾つもの隙間が暮らしを豊かに彩ります。

□住まい方の一例：



平面図。老夫婦も暮らしやすい１階だけのユニット。水回り共有のシェアハウスにも対応可能。

老夫婦　（２人暮らし）
母子家庭（２人暮らし）

・機能空間を垂直方向に重ねることで２つのユニットに住む家族同士をつなぐ。
・使い勝手を考慮した短い動線。
・開口部を互いの視線がぶつからないように設けることで、人の気配を感じながらもプライベートな空間を確保する。

普段の何気無い生活の中で、住人同士の緩やかなつながりが生まれます。